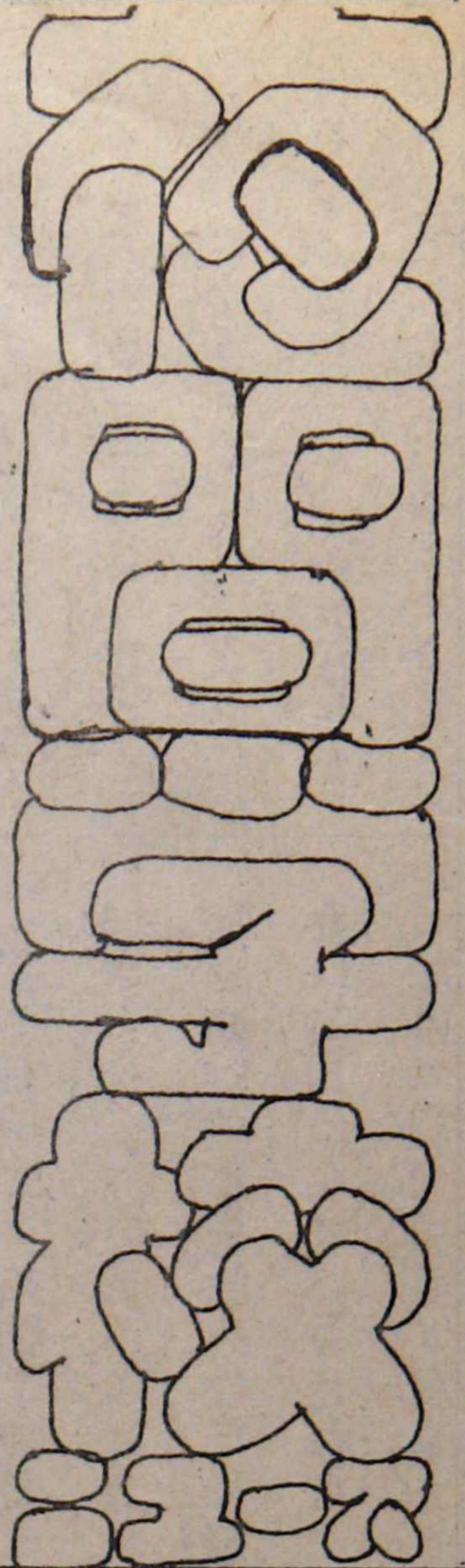


今日夜7じより
市民館3階
(西成區ウラ・映光公園前)
毎週金曜日

みんなでつくろう
 みんなの **会館**
三人よれば何とかの知恵



西成区萩之茶屋2-5-23
 釜ヶ崎解放会館内釜ヶ崎労働会館
 TEL 632-4273 気付
釜ヶ崎夜間学校

三角公園に

夜桜見物用の提灯が...

あれは風流が
 不気味か

三角公園に桜の木が植えられたのはいつだったか忘れたが、もはやチラホウと花を付けている。

(公園に木を寄付しようと考えた人達が、選木する時に、カマのアンコは仕事するうちが花よ、できなきや、きれいにバット散れ、という思いを込めて桜の木を選んだ、という話は全く

聞かない。素直に、あの木が丈夫に育って、毎年、きれいな花を見せてくれればいいなと願っている。

木を植えることを考える人達は、やはり気が早いものか、夜桜見物用の提灯が色とりもあざやかに下りてきている。しかし、夜の三角公園の

光景は、夜桜見物の風流さ、というよりも、お盆の墓場の不気味さを感じさせる。誰かの小説だか詩だかの中に、桜の木の下に死体がいま埋まっている、という一文があるそうだが、三角公園では、桜の木の下に死体があることがついている。

(死体というのは、今、現に青カンを余儀なくされている仲間達をさしているのではない。青カンを余儀なくされている仲間は生きています。しかし、かつて死んでいった仲間もたくさんいる。その仲間達の死体か、桜の木の下に見える。桜の木を植え、提灯をぶらさげること考え、実行した人達は、決して我々労働者に悪意を持っていない人達ではないのだからと思

う。しかし、そうは思いながらも、公園をきれいに飾れば、青カンする人達もいなくなつて、街がきれいになるだろう、という、表面だけのキレイさを追い求め、青カンを余儀なくされる仲間達を邪魔者扱いに考えている。悪意があるのではないかとかんぐったりもする。それは貧乏人のヒガミというものだろうか。釜ヶ崎に住む労働者として、それ以外の住民の関心、ともすれば、くいものにされる消費者とくいものにする商売人という側面、にのみ目が行きがちだが、共に話し合い、行動することは

こと改めて考えれば

人づきあいに必要性なし!!

自ずと生じる関係に味あり

前回、夜間学校の主役は、釜ヶ崎に来て三年ぐらい、二の業界の人夫出くは腹黒いのが多く、

他の業界にくらべて労働組合の必要性が高い、と考えている下さん。四十才になるが女房、子供なし、おつちゃんと呼ばれると猛烈に腹が立つという。

人夫出しの腹黒い例として出たのが岡田組の話。

岡田組は朝から、交通費をまけとけという。弁当の数が足りなくなったら弁当を負けとけという。朝からまけとけ、まけとけとるさいので、最近では行かないことになっているとのこと。

仲間このつきあいにについては、あってもなくてもよい、必要があまりない。そうだ。

その理由は、話を聞いてもギャンブル、仕事の話などに限られ、三十分も話をすると繰り返すことになることが多い。

その上に融通性があまりなく、意見がくい違つて、すぐ大声でおこりたす人がいるからだという。

釜ヶ崎十年、夜間学校常連のHさんは、つきあいはするが、ドヤの部屋番等はめつたに教えないことになっているそうだ。それというのも、仕事で二、

三度一緒になつたHさんより年下の人に、借金を申し込まれたので二、三度都合したか、全く返してくれないばかりか、最近返してくれなくなったことがないのは、返してくれなかったことがないの理由に断つていているのに、ここく部屋にたずねてくるといいういやな経験があるからだという。

しかし、人づきあいはきらいになつたわけではなく、夜間学校にはいろいろな人が集まるのが面白くて参加しているという。さて、この日、人づきあいについて考えようとしたのだが、こと改めて考えれば考えるほど、人こそ人が何のためにつきあうのか、逆にいえば、つきあわなければいけないものなのか、まったく判らなくなる。人間は、木の股からは生まれないので、そして、小さい時は

一人では生活できないので、当然、人と人との関係、つきあひの中で生きいる。

しかし、大きくなつて、自分と他人との区別ができ、違う人間として認めあうつきあひをするようになる。つきあひの中身や意味を考えるようになる。

学校、就職、企業、家族の中で生活が続いている場合には、ナレザダセイがあるので、人づきあいに必要性なし。とまで思いつめることは少ないように思われる。

しかし、ドヤの個室で単身生活を送り、仕事場も不安定な釜ヶ崎においては、人づきあひは意識的な選択する行為とならざるをえない。えらくしんどい話だ。そうではなければ、誰もが気楽にはいる「場」、会食、ぐりによって結着するしかない。